



医療  
ホット  
ライン

消化器内科

# 長引く咳、風邪だと思ったら「逆流性食道炎」の疑いも！

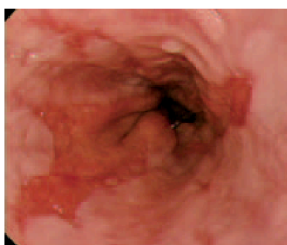


西村内科脳神経外科病院

医学博士 瀧武 諭 先生

## 逆流性食道炎の症状

- 胸やけ…主に食後に起こる
- 呑酸…酸っぱい・苦いものが口まであがってくる
- 嚥下障害と声がれ…のどに詰まり感を感じ、食べ物が飲み込みづらくなり声がれが生じる
- 長引く咳…難治性の風邪と診断されてしまうこともある
- 胸痛…しめつけられる胸の痛み
- 睡眠障害…夜間の咳や胸痛、呑酸などによる
- 虫歯…胃液が口内にあふれ歯を溶かす



逆流性食道炎の内視鏡画像。赤くなっているのが潰瘍部分

代表的な胸やけの他にも様々な症状を引き起こす「逆流性食道炎」。風邪だと思っていたら食道炎だった事例も…。詳しい話を瀧武先生に伺いました。

——最近よく耳にする「逆流性食道炎」とは？

**瀧武** 食道へ逆流した胃液が食道を荒らし、ただれや潰瘍を生じる病気です。胃液は強い酸性の胃酸や消化酵素を含んでおり、粘膜に保護されている胃とは違って食道は胃液に対する抵抗力が弱いために生じます。

——症状は？

**瀧武** 三大症状は胸やけ・嚥下障害・呑酸です。他にも逆流した胃液が喉に炎症を起こすと、食べ物や飲み物が飲めなくなったり、声がかれを起こすことも。また胃液が間違えて気管に入ると、激しく咳き込むような咳が長引く場合もあります。

——近年は増加傾向にあると聞きます。

**瀧武** そうですね。男性では中年以降、女性は高齢者に多くみられます。

①食道と胃のつながり目である膈門のゆるみ、②脂肪や糖分が多い食生活や食べ過ぎによる胃酸の過剰分泌、③肥満や背中が曲がった姿勢、ベルトなどの腹部の締め付けによるお腹の圧迫などが原因とされています。

——症状があればどこに相談すれば？

**瀧武** 消化器内科の専門

医に相談ください。診断には内視鏡検査が有効

で、胃液にさらされやすい下部食道での粘膜のびらん・潰瘍を確認します。

ただ白覚症状があっても内視鏡検査では異常がみられないことが…。これは「胃食道逆流症」と呼ばれる食道炎と同じに扱われます。また頻度は極めて低いのですが、 Barrett 上皮という「食道粘膜の胃粘膜化」が見られ、 Barrett 腺癌という特殊な食道癌を生じることもあります。

——治療法は？

**瀧武** 胃酸の分泌をおさえる薬や胃腸の働きを活発にする薬を使います。1日1回の服用で、症状

はぜひぶん改善されます。また生活習慣の注意も必要で、食事の際は食べ過ぎない、脂肪・糖分を過剰に摂取しない、食後3時間ほどは横にならないようにすることも大切。就寝時は座布団を敷き上半身を高めにする、あるいは左側を下にして寝ると胃液の食道への逆流を少なくできます。